

はじめに

1. 検証メンバー・チーム設置の目的と課題

(1) 検証メンバー・チーム設置の目的

我が国では航空、船舶事故ならびに重大な鉄道事故等が発生した場合、運輸安全委員会が、事故の再発防止を目的とする調査を行い、その結果を事故調査報告書として社会に公表している。同委員会は、昭和49年に設置された航空事故調査委員会及び同委員会を改組して平成13年に発足した航空・鉄道事故調査委員会を母体に、海難審判庁の業務の一部を統合して平成20年10月に発足した、国家行政組織法の第3条を根拠とする機関である。こうした事故調査システムは、米国のNTSB（国家運輸安全委員会）を嚆矢としており、運輸事故の再発防止という点で極めて有用である。

西日本旅客鉄道株式会社（以下、JR西日本と呼ぶ）の福知山線（塚口～尼崎駅間）において、平成17年4月25日、列車脱線事故（以下、福知山線事故と呼ぶ）が発生した。乗客106名、運転士1名が亡くなったほか、500名を超える負傷者を出した、極めて重大な脱線事故であった。この事故の調査を担当したのが、運輸安全委員会の前身の航空・鉄道事故調査委員会（以下、事故調と呼ぶ）である。

平成21年9月25日、福知山線事故の調査に携わっていた事故調の委員（当時）が、事故原因関係者であるJR西日本の山崎正夫社長（当時）らの求めに応じ、個別に接触して事故調査情報を漏えいするとともに、作成途中の「鉄道事故調査報告書」の記述について同社長から再考を依頼され、事故調の委員会審議において、その書き換えを求める発言を行っていたことなどの不祥事が明るみに出た。これにより、平成19年6月28日に公表された福知山線事故に関する「鉄道事故調査報告書」（以下、調査報告書と呼ぶが、最終調査報告書又は最終事故調査報告書と呼ぶ場合もある）のみならず、運輸安全委員会が行う事故調査に対する国民の信頼が大きく損なわれる事態となった。

このため、前原誠司国土交通大臣（当時）の指示に基づき、運輸安全委員会は、山崎社長の再考要請等が調査報告書へ与えた影響のみならず、当該報告書全般の信頼性を検証した上で、その結果を踏まえて必要な措置を講じることとした。そして、これを進めるにあたって、運輸安全委員会では、損なわれた社会の信頼を回復するためには、第三者による徹底的な検証作業が必要であるとの認識から、有識者ならびに福知山線事故の被害者からなる福知山線列車脱線事故調査報告書に関わる検証メンバー・チーム（以下、検証メンバー又は検証チームとも呼ぶ）を設置し、同チームにその作業を委ねることとした。

こうして、平成21年11月10日、運輸安全委員会からの委嘱により、12名からなる表1の検証メンバー・チームが設置された。国の機関の委嘱を受けて、検証対象となる事故に係る遺族や負傷者（家族を含む）がこうした検証作業に参画するのは、我が国の歴史の中でも極めて稀な事例である。

表1 検証メンバー（12名）

安部 誠治	関西大学教授
佐藤 健宗	弁護士・鉄道安全推進会議（TASK）事務局長
永井 正夫	東京農工大学大学院教授
畑村 洋太郎	工学院大学教授
柳田 邦男	作家
浅野 弥三一	福知山線事故遺族（4・25 ネットワーク）
小椋 聡	福知山線事故負傷者（4・25 ネットワーク）
木下 廣史	福知山線事故遺族（4・25 ネットワーク）
坂井 信行	福知山線事故負傷者（負傷者と家族等の会）
中島 正人	福知山線事故負傷者家族（負傷者と家族等の会）
三井 ハルコ	福知山線事故負傷者家族（負傷者と家族等の会）
大森 重美	福知山線事故遺族

(2) 検証メンバー・チームの課題

検証メンバー・チームが運輸安全委員会から依頼を受けた検証すべきテーマは、下記のi)～iii)であるが、今回の不祥事を招いてしまった原因・弱点は事故調側にもあったことから、検証メンバーは検証の過程で明らかになった課題等を今後の事故調査活動の中で改善していく必要があると考え、運輸安全委員会及び我が国の事故調査システムのあり方をも併せて検討することとし、以下の4つのテーマを検証チームが取り組むべき課題に設定した。

i) JR西日本の働きかけとその調査報告書への影響の検証

JR西日本関係者からの働きかけによって、①事故調委員から情報が漏えいした問題、②JR西日本関係者から意見聴取会の公述人候補者に働きかけが行われていた問題、③JR西日本社長の依頼を受けた事故調委員が委員会審議の中で調査報告書の書き換えを求めた問題、及び④JR西日本の働きかけが調査報告書へ与えた影響の有無の問題、の4点の検証を行う。また、これらのほかにも情報漏えい等の不正な事実がなかったかどうかの確認も行う。

ii) 資料の未提出問題とその調査報告書への影響の検証

JR西日本による事故調への資料未提出問題について、その内容と調査報告書への影響の有無を検証する。また、これまでに明らかになっている未提出資料以外に

未提出資料がなかったかどうかの確認も行う。

iii) 調査報告書全般の信頼性の検証

福知山線事故に関する調査報告書全般の信頼性そのものが問われる事態となっていることから、すでに明らかになっている事実以外に、働きかけ等によって調査報告書が他に影響を受けていなかったかなど、調査報告書全体について調査し検証する。

iv) 今後の事故調査システムのあり方に関する提言

前記 i) ～ iii) によって明らかになった事故調ならびに運輸安全委員会の問題点・課題を抽出し、かつ、かねてから被害者・遺族を中心に調査報告書に対する疑問や「記述のスタイルがわかりにくい」などの不満が出されていたこと等を踏まえ、今後の我が国の事故調査システムのあり方に関しても提言する。

以上のテーマのうち、第1部（JR西日本福知山線事故調査に関わる不祥事問題の検証）は主として i) ～ iii) を、そして第2部（事故の再発防止に資する事故調査システムのあり方）は iv) を取り扱う。

2. 検証作業の方法と内容

(1) 検証作業の方法と内容

検証チームは、以下のとおり、①JR西日本や事故調関係者などを対象とするヒアリングの実施、②運輸安全委員会に保存されている福知山線事故調査に係る委員会の審議音声記録の検証、③事故調査関係資料の確認と点検、④未提出資料に関する検証、⑤運輸安全委員会が作成した不祥事問題に関する調査結果やその他の説明資料等の検討、⑥JR西日本の運転士に対する独自のアンケートの実施などの形態・方法で検証作業を行った。

1) 関係者ヒアリングによる検証

ア. 事故調等関係者からのヒアリング

今回の情報漏えい問題の事実関係、事故調査機関の現状と課題等を調査する目的で、当時の事故調委員、事故調査官及び運輸安全委員会の現職委員からのヒアリングを実施した。ヒアリング実施にあたっては、「事故調側の問題点ヒアリングメンバー」（柳田、安部、佐藤、浅野、三井）による打合せを実施し、質問事項の確認やヒアリング結果の分析等を行った。

ヒアリングは、平成22年3月～4月に、運輸安全委員会の会議室で実施した。実施者・対象者、実施日等については、表2（役職名はヒアリング時点）のとおりである。なお、佐藤泰生委員については、平成22年9月に再ヒアリングを行った。

表2 事故調・運輸安全委員会関係者ヒアリング一覧表

対象者（ ）内は役職名	実施者	実施日
垣本由紀子氏（元事故調委員）	安部、柳田	平成22年3月16日
楠木行雄氏（元運輸安全委員会委員）	安部、佐藤、柳田	平成22年3月16日
押立貴志氏（元次席鉄道事故調査官）	畑村、柳田	平成22年3月19日
山口浩一氏（元事故調委員）	佐藤、柳田	平成22年3月24日
後藤昇弘氏（運輸安全委員会委員長）	佐藤、柳田	平成22年3月24日
佐藤泰生氏（元事故調委員）	柳田	平成22年3月24日
中桐宏樹氏（元首席鉄道事故調査官）	安部、佐藤	平成22年4月8日
宮本昌幸氏（運輸安全委員会委員）	安部、佐藤	平成22年4月8日
遠藤信介氏（運輸安全委員会委員）	安部	平成22年4月8日
佐藤泰生氏（元事故調委員）（2回目）	安部、佐藤、柳田、浅野	平成22年9月1日

イ. JR西日本関係者からのヒアリング

情報漏えい問題、公述人候補者への働きかけ、資料未提出問題、調査報告書の記載内容の再考要請等の問題行為について、その事実関係や動機、背景を解明する目的で、JR西日本関係者からのヒアリングを実施した。ヒアリング実施にあたっては、「JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー」（安部、柳田、大森、小椋、坂井、中島）による打合せを実施し、質問事項の確認やヒアリング結果の分析、運転士アンケート（後述）の準備等を行った。

ヒアリングは、平成22年3月から7月にかけて断続的に、大阪市内のホテル会議室で実施した。実施者・対象者、実施日等については表3（役職名はヒアリング時点）のとおりである。

表3 JR西日本関係者ヒアリング一覧表

対象者（ ）内は役職名	実施者	実施日
丸尾和明氏（元副社長）	安部、柳田	平成22年3月8日
山崎正夫氏（前社長）	安部、柳田	平成22年3月8日
土屋隆一郎氏（元審議室*長）	安部、柳田	平成22年3月8日
望月康孝氏（元審議室*担当室長）	安部、柳田	平成22年3月8日
前田昌裕氏（元安全推進部担当部長）	安部、柳田	平成22年5月12日
F氏（元安全対策室担当者）	安部、柳田	平成22年5月12日
E氏（元審議室*担当者）	安部、柳田	平成22年5月12日
N氏（安全推進部担当部長）	安部、柳田	平成22年5月12日
鈴木喜也氏（元技術部マネジャー）	安部、柳田	平成22年7月12日
垣内剛氏（元取締役）	安部、柳田	平成22年7月12日
南谷昌二郎氏（元相談役）	安部、柳田	平成22年7月12日

*審議室とは、福知山線列車事故対策審議室を指す。

2) 委員会審議音声による検証

事故調委員が、山崎社長の調査報告書の再考要請を受けて委員会審議中に発言した内容、意見聴取会における公述人選定過程、事故調関係者からのヒアリング結果の裏付調査、その他、調査報告書の中で信頼性を検証すべきと思われる部分について、それぞれに係る審議記録を確認・検証した。

なお、事故調の審議記録としては、事故調査官のメモ用に録音された音声記録が、運輸安全委員会に保存されている。この審議音声の確認にあたっては、音声の録音状態が良好ではない部分もあることから、必要に応じて運輸安全委員会事務局から説明を受け、該当部分の調査報告書案のチェックを行った。審議音声の確認状況については、表4のとおりである。

表4 審議音声の確認状況一覧表（確認順）

確認した委員会等審議（開催日）	確認者	主な確認内容
委員懇談会（平成19年6月11日）	検証メンバー全員	山口委員の発言内容
第41回委員会（平成19年6月7日）	大森	建議の修正経緯
委員懇談会（平成19年6月11日）	安部、大森	A T S - P等の整備
第21回委員会（平成18年9月13日）	安部、大森	運転士へのヒアリング調査
第35回委員会（平成19年4月5日）	安部、大森	運転士へのアンケート調査
第36回委員会（平成19年4月19日）	安部、大森	運転士へのアンケート調査
委員懇談会（平成19年5月21日）	安部、大森	A T S整備の評価
委員懇談会（平成19年6月11日）	安部、大森	A T S整備の評価
第42回委員会（平成19年6月15日）	安部、大森	A T S整備の評価
委員懇談会（平成19年6月11日）	安部、大森	建議、所見、参考事項
第39回委員会（平成19年5月17日）	安部、大森	A T S整備の評価
第35回委員会（平成19年4月5日）	安部、大森	A T S整備の評価
第36回委員会（平成19年4月19日）	安部、大森	A T S整備の評価
第29回委員会（平成18年12月6日）	安部、大森	意見聴取会公述人選定
第31回委員会（平成18年12月14日）	安部、大森	意見聴取会公述人選定
第32回委員会（平成19年1月18日）	安部、大森	意見聴取会公述人選定
第33回委員会（平成19年1月24日）	安部、大森	意見聴取会公述人選定
第19回委員会（平成18年4月20日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け
第20回委員会（平成18年9月6日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け
第21回委員会（平成18年9月13日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け
第37回委員会（平成19年5月1日）	柳田、浅野、小椋	事故原因
第38回委員会（平成19年5月11日）	柳田、浅野、小椋	事故原因
第16回委員会（平成18年8月23日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け
第41回委員会（平成19年6月7日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け

第 24 回委員会（平成 18 年 10 月 26 日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け
第 23 回委員会（平成 18 年 10 月 11 日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け
第 26 回委員会（平成 18 年 11 月 16 日）	柳田、浅野、小椋	ヒアリング結果の裏付け
第 41 回委員会（平成 19 年 6 月 7 日）	安部、佐藤、柳田、浅野、大森、小椋、坂井、中島、三井	所見
委員懇談会（平成 19 年 6 月 11 日）	安部、佐藤、柳田、浅野、大森、小椋、坂井、中島、三井	所見

3) 事故調査関係資料による検証

未提出資料の内容の評価やヒアリングの裏付け調査のため、事故調が J R 西日本などから入手した事故調査関係資料の確認を行った。なお、事故調査関係資料のうち J R 西日本が提出した資料については、検証作業のためにのみ使用することを明確にした上で、J R 西日本の了解を得て、検証メンバー限りの資料として閲覧・点検した。事故調査関係資料に関する個別の検証作業状況については、表 5 のとおりである。

表 5 事故調査関係資料の個別検証作業状況一覧表（確認順）

作業日	確認者	主な作業内容
平成 21 年 11 月 26 日	大森	信号・A T S 等の概要及び調査報告書の質疑応答
平成 22 年 2 月 3 日	木下	意見聴取時の J R 西日本からの意見に対する対処方針について
平成 22 年 2 月 3 日	大森	分岐速照機能・曲線速照機能等の違いほか
平成 22 年 2 月 18 日	大森	事故調が実施したアンケート等の確認
平成 22 年 3 月 19 日	畑村、柳田	列車防護に関する記述についての確認ほか
平成 22 年 6 月 10 日	小椋	調査報告書付図 3 9 に関する提出資料の確認
平成 22 年 6 月 13 日	大森	曲線の危険性についてのランク付けほか
平成 22 年 7 月 15 日	永井	調査報告書の技術的解析内容の確認ほか
平成 22 年 7 月 21 日	畑村	調査報告書の技術的解析内容の確認ほか
平成 22 年 9 月 15 日	大森	建議及び所見を受けた後に実施した国の取り組みほか
平成 22 年 9 月 15 日	小椋	函館線事故と曲線の危険性の認識ほか
平成 22 年 10 月 28 日 ～10 月 29 日	浅野、小椋、 柳田	事故等調査報告書作成要領、鉄道事故初動調査マニュアルの確認 ほか

4) 未提出資料による検証

未提出資料の内容を評価するため、J R 西日本が事故調へ提出していなかった資料の確認を行った。未提出資料及び関連する資料（別紙資料 1 - III - ①、1 - III - ②参照）については、当初、検証作業のためにのみ使用することを明確にした上で、J R 西日本の了解を得て検証メンバー限りの資料として閲覧していた。しかし、検証の結果、検証メンバーは、当該資料については広く国民に知らせる必要があると判断し、

それを公開することについて運輸安全委員会事務局を通じJR西日本の了解を求めた。そして、同社から公開について同意の回答があったので公開することとした。

5) 運輸安全委員会事務局が作成した資料等による検証

情報漏えい等の事実関係や調査報告書の内容の理解を深めること、現行の事故調査システムの問題点を把握することなどを目的として、必要に応じて、運輸安全委員会事務局から関連資料の提供を受け、その資料をもとに検討を行った。運輸安全委員会事務局が作成した資料には、検証メンバーの依頼に基づいて作成したものと運輸安全委員会事務局が自発的に作成・提出した資料とがある。また、検証作業を進めるために、検証メンバー自身も資料を作成し、メンバーの参考に供した。

以上の資料のうち、すでに運輸安全委員会のホームページ等において公開されているものは表6のとおりである。

表6 検証で使用した資料のうち公開されているもの

資料名	作成者等	備考
福知山線脱線事故調査報告書	事故調	
福知山線脱線事故調査報告書（添付資料）	同上	
事実調査に関する報告書の案（意見聴取会用）	同上	
福知山線脱線事故調査（経過報告）	同上	
福知山線脱線事故調査報告書に係る情報漏えい等に関する調査結果について	運輸安全委員会	第1回検証メンバー会合配付資料
同概要版	同上	同上
福知山線脱線事故関係の時系列表	運輸安全委員会事務局	同上
検証メンバーから寄せられた検証テーマ	同上	同上
警察庁との覚書関係資料	警察庁、事故調、運輸安全委員会	同上
日本航空史【昭和戦後編】（抜粋）	（財）日本航空協会	同上
事故調・運輸安全委員会問題に関する検証作業の方向性について	安部誠治	同上
JR西の働きかけによる報告書への検証	大森重美	同上
検証テーマの追加	負傷者と家族等の会	同上
JR西日本情報漏えい等についての働きかけに関する実態調査の結果及び再発防止策等の改善措置について（前原国土交通大臣への報告）	JR西日本	同上
JR西日本コンプライアンス特別委員会最終報告書	JR西日本コンプライアンス特別委員会	同上
運輸安全委員会関係法令	－	同上
事故調関係法令	－	同上
ヒアリング概要（JR西日本関係）	安部誠治	第2回検証メンバー会合配付資料
ヒアリング概要（委員会関係）	柳田邦男	同上
事故発生からの経過	運輸安全委員会事務局	同上
福知山線脱線事故発生から最終報告書議決までの委員会・部会審議状況	同上	同上
福知山線脱線事故に関する記者レク実施状況	同上	同上

委員名簿	同上	同上
委員会審議概要	事故調	同上
鉄道局資料（函館線列車脱線事故概要）	国土交通省鉄道局	同上
鉄道事故調査報告書の本文ページ数と原因部分記載量	運輸安全委員会事務局	同上
各国事故調査報告書の結論部分記載の比較	同上	同上
運輸安全マネジメント制度説明資料	国土交通省大臣官房 運輸安全監理官	同上
海外主要国の事故調査機関	運輸安全委員会事務局	同上
コンプライアンス特別委員会等の調査結果整理表	同上	同上
福知山線列車脱線事故以降の取り組みについて	運輸安全委員会事務局	第4回検証メンバー 会合配付資料
航空事故調査と犯罪捜査の関係の日米欧の制度について	同上	同上
米国における事故調査と刑事免責の関係について	同上	同上
合衆国法典第49巻—交通（Transportation）（抜粋）	—	同上
航空事故及びインシデント調査マニュアル（ICAO） パート4 Reporting（抜粋）	運輸安全委員会事務局 訳	同上
事故調査における企業の組織体質・文化風土等の扱いについて	運輸安全委員会事務局	同上
福知山線列車脱線事故以降の取り組みについて	同上	第5回検証メンバー 会合配付資料

6) 運転士アンケートの実施

事故調は、福知山線事故の調査過程で、7回にわたってJR西日本の運転士からヒアリング（アンケート形式を含む）を行っているが、事故発生箇所の曲線部に焦点をしばったアンケートは行われていないことから、事故調が実施したヒアリング（アンケート形式を含む）が十分な内容であったのか否かを見極めること、また、現場の運転士の生の声をつかむことや、若い運転士とベテラン運転士で考え方がどう違うのかなどを把握することを目的に、運転士に対する独自のアンケートを実施した。実施方法等については、以下のとおりである。また、アンケート質問表及びアンケート集計結果については、それぞれ付録－1－1及び付録－1－2に示すとおりである。

アンケートの実施方法

- 対象者：福知山線事故当時、事故現場を含むJR宝塚線において列車を運転していた運転士515名（現在は同社を退職している者も含む）。
- 実施方法：JR西日本の協力を得て、現役運転士については所属職場ごとに調査票及び返送用封筒が入った密封封筒を所属箇所長等から一人ひとりに手渡す形で配付。退職者については、JR西日本を經由して郵送により配付。
- 回収方法：関西大学・安部研究室宛に回答者自身が直接郵送する形で回収。
- 実施日：平成22年7月1日～18日。ただし、18日以降7月末までに郵送

されてきた約20通の回答書についても集計結果の中に算入した。なお、8月6日に1通、9月1日にさらにもう1通送られてきたが、締切日を大きく過ぎていたことから、これら2通は集計に算入しなかった（これら2通を加えれば、合計で395通の回答があった）。

○記名方式：回答の信頼性を高めるために、記名での回答を求めた。郵送により回収した393通の回答書のうち391通に氏名・年齢・所属職場が明記されており、2通は無記名であった。また、記名があった391通のうち、1通は事故現場の運転経験がなかったものであることが確認されたため、無記名のもの2通と運転経験なし1通については集計から除外した。以上から、有効回答数は、390通となった。

(2) 検証メンバー会合

検証メンバーは、平成21年12月7日に初会合を開き、検証作業に着手した。

平成22年2月になって、検証作業を機動的に進めるために、検証チーム内に「JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ分科会」ならびに「事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ分科会」を設置した。両分科会の構成メンバーは次のとおりである（○印は取りまとめ役）。

JR西日本側分科会：○安部、柳田、大森、小椋、坂井、中島

事故調側分科会：○柳田、安部、佐藤、浅野、三井

両分科会は、平成22年8月までは毎月1回、9月以降は固定メンバーだけでなく検証メンバーが自由に参加する形で、2週間に1回の割合で開催した。そして、平成23年1月からは、両分科会を「合同分科会」として合体させ、9回の分科会を開催した。また、各分科会による検証作業の進捗状況に合わせて、報道機関への公開のもとに検証メンバー会合を6回（平成21年12月7日、平成22年4月19日、平成22年9月3日、平成22年12月13日、平成23年2月24日、平成23年4月15日）開催した。このほか、作業の方向性の検討や検証メンバー会合に向けた準備などを目的として、関西在住のメンバーを中心とした打合せ（関西在住メンバー等打合せ）を3回開催した。

以上の分科会・会合の開催状況は表7のとおりである。

表7 分科会・会合の開催状況（開催順）

分科会・会合等	開催日時（所要時間）	開催場所
第1回検証メンバー会合	平成21年12月7日（約2時間）	運輸安全委員会委員会室
関西在住メンバー等打合せ（第1回）	平成22年1月16日（約3時間）	大阪市内会議室
事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第1回）	平成22年2月3日（約2時間）	同上
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第1回）	平成22年2月3日（約2時間）	同上

事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第2回）	平成22年4月12日（約2.5時間）	同上
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第2回）	平成22年4月12日（約2時間）	同上
第2回検証メンバー会合	平成22年4月19日（約2時間）	大阪新阪急ホテル
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第3回）	平成22年5月10日（約2時間）	関西大学高槻ミュージックキャンパス
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第4回）	平成22年6月7日（約3時間）	同上
事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第3回）	平成22年6月21日（約3時間）	同上
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第5回）	平成22年7月12日（約3.5時間）	同上
事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第4回）	平成22年7月23日（約1.5時間）	同上
関西在住メンバー等打合せ（第2回）	平成22年7月23日（約3時間）	同上
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第6回）	平成22年8月18日（約2.5時間）	大阪市内会議室
事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第5回）	平成22年9月1日（約3時間）	運輸安全委員会会議室
第3回検証メンバー会合	平成22年9月3日（約2時間）	大阪新阪急ホテル
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第7回）	平成22年9月15日（約3.5時間）	大阪市内会議室
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第8回）	平成22年10月3日（約4.5時間）	関西大学高槻ミュージックキャンパス
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第9回）	平成22年10月23日（約4時間）	同上
事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第6回）	平成22年10月25日（約4時間）	同上
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第10回）	平成22年11月14日（約4時間）	同上
事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第7回）	平成22年11月15日（約4時間）	同上
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第11回）	平成22年11月29日（約3.5時間）	大阪市内会議室
JR西日本側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第12回）	平成22年12月5日（約2.5時間）	関西大学高槻ミュージックキャンパス
事故調側の問題点ヒアリングメンバー打合せ（第8回）	平成22年12月6日（約5時間）	同上
関西在住メンバー等打合せ（第3回）	平成22年12月6日（約1.5時間）	同上
第4回検証メンバー会合	平成22年12月13日（約2時間）	大阪第一ホテル
合同分科会（第1回）	平成23年1月4日（約3.5時間）	大阪市内会議室
合同分科会（第2回）	平成23年1月17日（約6時間）	関西大学高槻ミュージックキャンパス
合同分科会（第3回）	平成23年2月7日（約5.5時間）	同上
合同分科会（第4回）	平成23年2月17日（約5.5時間）	同上
第5回検証メンバー会合	平成23年2月24日（約2時間）	KKRホテル大阪
合同分科会（第5回）	平成23年2月28日（約6時間）	関西大学高槻ミュージックキャンパス
合同分科会（第6回）	平成23年3月7日（約6時間）	同上
合同分科会（第7回）	平成23年3月16日（約6時間）	同上
合同分科会（第8回）	平成23年3月25日（約6時間）	同上
合同分科会（第9回）	平成23年4月7日（約6時間）	同上
第6回検証メンバー会合	平成23年4月15日（約1.5時間）	運輸安全委員会委員会室